

公表		事業所における自己評価総括表	
○事業所名	クラブ日吉校		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 3月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日	～	令和7年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の内容等をしっかりと理解してもらっている。	・個別支援計画の見直しや面談時に、保護者と合わせて個別支援計画の読み合わせなどを実施。また、利用者にとって無理の無い計画でさらに簡潔なものを立てることでご家族の方にも理解を得られやすくしている。	・保護者のニーズをいち早く把握できるように、日頃から保護者や本人とのコミュニケーションを意識して取り組むようにする。 ・相談員との連絡をこまめに取るようにする。
2	学習支援に力を入れており、小学校や中学校の内容についてだけでなく、高校受験や高校卒業後の進路についてもサポートし、必要なもの(面接対策、作文指導など)を実施している。 今年度は、高校受験について全ての子どもが第一志望校に合格することができている。(県立高校、特別支援学校高等部、サポート校あわせて)	・学校の宿題のサポートだけでなく、その子の状況に応じて課題を設定して必要な学習を補うようにしている。 ・将来を見据えて、高校選びなどのアドバイスを実施している。 ・子どもの特性などに応じて、個別で対応する部屋で優先的に支援を行うなど、場所について配慮をしている。	・学習が苦手な子に学校とは違う形でわかりやすく覚える方法が無いか模索する。 ・高校のスタイルも多種多様に増えてきているので、その子どもにとってどんな高校が選択肢として考えられるか、またどんな進路に進むのが適切か情報収集をする。
3	単純な学習だけでなく、ボードゲームを用いて対人スキルを学んだり、生活力を鍛えたりしている。	・ボードゲームやカードゲームを用いて、コミュニケーション能力を鍛えている。また、それらを用いて先を読む力や計算力などを鍛えている。 ・独自のポイント制度(紙幣を真似たもの)を使って、買い物疑似体験してもらうことで、お金の計算などを日常的に行えるようにしている。	・同一の内容に偏ることが無いように新しいボードゲームを導入してみるなど、様々なものを教材として取り入れてみる。 ・子ども達からやってみたいボードゲーム等のリクエストを聞いて、それが支援するにふさわしいか協議の上導入してみる。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の事業所や地域の子どものとの交流が少ない。	・イベントの実施も、当事業所の利用者だけの参加のものが多い。 ・兄弟の参加はできるようなイベントを実施しているが、友人などと一緒に参加できるイベント等は実施していない。	・他の事業所との交流の機会を持つ。 →現在、ワーキング等で顔を合わせる機会はあるが、例えばお互いの事業所見学などを実施するなどして、お互いに交流をしやすい状況を作り、やがて合同でイベントを行うといった計画を模索してある。 ・当事業所のイベントの中でも、利用者だけでなく普段から関わっている友人も呼んで良いものといったイベントも企画する。
2	保護者同士の交流の機会が少なめになっている。	・夏休み中のイベントで保護者の方が参加できるようにしているが、その1回にとどまってしまう。 ・保護者対象のイベントや行事等は現在実施していない。	・保護者がどのようなイベントをしたいか聞いたうえで、それに則ったイベントを実施。(保護者主体でできるもの) ・現在実施している保護者の方が参加できるイベント内で、従業者との対話の時間を、予定に組み込む。
3	避難訓練を実施しているが、それを知られていない。	実施報告は自治体に行っているが、家庭向けの報告や案内をしていない。	・避難訓練だけでなく日頃から活動の様子などをSNS等のメディアを使ってお知らせする。 ・避難経路マニュアル等を面談時や契約時にあらためて提示する。